

## 米国カリフォルニア州 核果類の出荷が早まる可能性

[FreshPlaza 2024年3月25日](#)

カリフォルニア州での早期の予想によると、今年の核果類(モモ、スモモ等)の収穫は少し早く始まる可能性がある。HMC農場のジョン・マクラーティ氏は、「昨年はいまだに最も収穫が遅かったため、それよりもおそらく7〜10日早くなるだろう。弊社の収穫は5月上旬に開始する予定だ」と述べている。(以下「」は同氏の発言)

そうは言っても、収穫まで2か月を切った今、それ次第では収穫のタイミングに大きな影響を与える可能性がある天候に注目が集まっている。「カリフォルニア州は、適切な低温積算時間の下限にあると思う。果樹にとってはまずまずのオフシーズンであったが、素晴らしかった訳ではない。」

### 今後の収穫を見据えて

収穫量はまだ決まっていない。シーズン中のこの時点では、霜と雹という2つの気象現象がカリフォルニア州の核果類に影響を与える可能性がある。「霜を心配する時期は終わりに近づいてきており、雹を警戒しはじめている。これまでのところ、シーズンの初めに霜害の影響をわずかに受けた昨年と比べると前半については良いようで、平均的な収穫のように見える。」

需要については、マクラーティ氏は好調だと予想している。「核果類は季節の果実の中で最後に出てくるものの1つなので、弊社の品目の中でも関心が高い。」

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

## 南アフリカ産リンゴ タイ市場の再開に向けて査察を受け入れ

[HORTGRO 2024年3月26日](#)

タイが、行政上の手違いにより、南アフリカ産の落葉果実の輸入を禁止してから16年が経ち、交渉は正しい方向に進んでいる。

生食用ブドウ、リンゴ、ナシ、核果類などの南アフリカ産青果物のタイ向け輸出が禁止された当時(2008年)、その市場価値は約670万米ドルであった。

タイ農業省の査察官が最近、南アフリカ産リンゴの輸出市場の再開可能性を確認することを目的として、現地の生産状況を評価する12日間の調査のために南アフリカに到着したことから、産地の関係者らは大きな期待を寄せている。

査察官らは、南アフリカのリンゴ産業がタイへのアクセスを取り戻すための最後のステップの1つとして、果樹園と梱包施設の検査を実施した。査察団には、農業・土地改革・農村開発省、生鮮食品輸出管理委員会(PPECB)及び南アフリカ園芸生産者協会(Hortgro)の関係者が同行した。

最初の1週間は、EGVV(西ケープ州のエルギン、グラボウ、ヴィーブーム、ヴィリアスドープの各地域の頭文字)地域とセレス地域(西ケープ州)の産地の果樹園や梱包施設を訪問し、その後、ラングクルーフ地域(東ケープ州)の現場も同様に訪問した。また、日程には冷蔵倉庫やコンテナデポへの訪問も含まれていた。

Hortgroの貿易・市場担当部長であるジャック・デュプリーズ氏は、市場再開のプロセスを完了する迄には、まだいくつかの作業を行う必要があるとしつつ、「南アフリカのリンゴ生産者と輸出業者は喜んでおり、味の良いリンゴを再びタイに輸出し、両国間の貿易関係を強化する見通しに期待を持っている」と述べた。

執筆者: エリーゼマリー・スティーンカンブ